

<ヒアリング項目>

「周波数の経済的価値の考え方、評価手法について」

1社 10分説明、10分～15分質疑(入替え制)

※説明時間終了の2分前にベルが1度、終了時にベルが2度鳴ります。

1. 株式会社NTTドコモ

- 取締役常務執行役員 たむら ほづみ 田村 穂積 様

2. KDDI株式会社

- 執行役員常務 技術統括本部 技術企画本部長 あかぎ あつし 赤木 篤志 様

3. ソフトバンク株式会社

- 常務執行役員兼CNO つくだ ひでゆき 佃 英幸 様

4. 楽天モバイル株式会社

- 執行役員管理本部本部長 まえだ あつし 前田 敦史 様

ヒアリングの進め方(第2回 令和2年1月27日)

<具体的なヒアリング事項>

- 割当済み周波数に係る整備・活用の状況、5Gに係る取組の現状はどうなっているか。(周波数ごとの基地局の設置状況、商用サービスの内容(予定や構想でも可)など)
- 周波数の経済的価値についてどう捉えているか(総論)。
- 総論に関連し、価値の設定にあたり、AP法を下限の参考値、収益還元法を上限の参考値、比較法を価値の幅(レンジ)として参照する、という大枠の考え方について、ご意見を伺いたい。
- 共用条件等の検討を行っている4.9GHz帯、26GHz帯、40GHz帯ごとの周波数の経済的価値についてどう捉えているか。
- 昨年4月に割り当てられた周波数はどの程度の経済的価値があると考えているか。
- 特定基地局開設料について「標準的な試算」を示す意義をどう考えているか。
- 比較法や収益還元法のアプローチは実態に合ったものと考えられるか。
- 比較法について、どのようなパラメータ(帯域幅、人口、通貨、免許期間等)を用いて基準化することが望ましいか。
- 近年の諸外国の周波数オークションの結果について、何らかのコメントがあれば伺いたい。
- 収益還元法について、どのようなパラメータ(契約数の増分、ARPUの増分、設備種類別の設備量・設備単価の増分、その他必要な前提条件)を用いて算定することが望ましいか。
- 「標準的な試算」は、金額又は計算式のどちらで示されることが望ましいか。